

共同研究成果報告書

作成日 平成22年 6月15日

研究課題名	古典形成の基盤としての中世資料の研究					
所属研究部局 ・職名	文学形成研究系	ふりがな	たけい きょうぞう			
	・教授	研究代表者氏名	武井 協三			
研究形態	1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 ()					
研究の位置づけ	(1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 ()					
研究期間	平成16年度～平成21年度		6年計画の第6年次			
研究経費	年度	研究経費	経費内訳 (単位:円)			
			物品費	旅費	謝金等	その他
	平成16年度	2,680,750	462,800	156,030	212,800	1,849,120
	平成17年度	3,964,264	2,253,724	345,890	472,150	892,500
	平成18年度	824,990	143,850	482,410	192,850	5,880
	平成19年度	1,177,405	611,020	513,185	53,200	0
	平成20年度	997,686	327,526	560,260	106,400	3,500
	平成21年度	1,338,665	0	496,960	295,688	546,017
総計	10,983,760	3,798,920	2,554,735	1,333,088	3,297,017	

研究組織				
氏 名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役 割 分 担	エフオート (%)
(研究代表者)				
松村 雄二 [平成 16・17 年度]	前副館長	中世文学	中世和歌の観点による研究	10
武井 協三 [平成 18～21 年度]	文学形成研究系・教授	近世演劇	演劇資料の観点による研究	10
(研究分担者)				
落合 博志	文学資源研究系・准教授	中世文学	書籍の体系についての分析、人物 伝記解題	15
齋藤 真麻理	文学形成研究系・准教授	中世文学	御伽草子における分析	10
相田 満	アーカイブズ研究系・助教	和漢比較文学・人 文情報学	人物・キャラクターの継承・享受 についての分析・データベース構 築	10
渡辺 信和	同朋大学・仏教文化研究所・研 究室長	説話・仏教文学	古典的キャラクターの表象につい ての分析・研究	10
濱中 修	国士舘大学・文学部・教授	説話文学	沖縄など南伝の影響を視野に加え た分析	25
横田 隆志	大阪大谷大学・文学部・准教授	説話文学	媽祖と観音など台湾や南伝のキャ ラクターの定着過程	25
三田 明弘	日本女子大学・人間社会学部・ 准教授	説話文学	台湾・中国の仏伝キャラクターを 視野に加えた分析	25
牧野 和夫	実践女子大学・文学部・教授	説話文学	古典的キャラクターの表象につい ての分析・研究	5
渡辺 匡一	信州大学・人文学部・准教授	説話文学	善通寺典籍についての研究	10
中山 一磨	大阪大学・大学院文学研究科・ 招へい研究員	説話文学	善通寺典籍についての研究	10
陳 明姿	台湾大学・教授（当館外国人研 究員（教授））	物語文学	古典的キャラクターの表象につい ての分析・研究	20
(研究補助者)				
宮本 淳子 [平成 19～21 年度]	文学形成研究系・リサーチアシスタント		プロジェクト研究事務補助	
伊藤 潤 [平成 16 ～18 年度]	文学形成研究系・リサーチアシスタント		プロジェクト研究事務補助	
合計 15 名				

【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に含めて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・【全体の研究成果】等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

国文学研究資料館では平成16年度より第一期中期目標期間に入り、いくつかの研究プロジェクトが開始された。「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクトは、松村雄二教授を研究代表者として発足し、松村教授の定年退職にともない、平成18年度からは、武井協三が代表の任を継いで今日に至っている。

発足当初は国文学研究資料館内部スタッフのみによる研究プロジェクトで、構成員の中軸は、文学形成研究系の落合博志准教授と相田満助教で、これに客員教授を加えて研究を展開した。文学形成研究系では、構成員それぞれの研究テーマと国文学研究資料館としての共同研究テーマをどのように融合させるかに苦慮し、「古典形成の基盤としての中世資料」というテーマを打ち出した。これは落合准教授の典籍研究、相田助教の人物（キャラクター）研究という、それぞれが進めてきた研究を強く意識し、その結節点として考え出されたテーマであった。

典籍や作品の登場人物に対する「古典」としての認識が始まるのが中世という時代であり、「古典」というキーワードによって両者を結びつけようと目論んだのだが、「典籍」「人物」という視点をダイナミックに交錯させるという成果は、必ずしもはかばかしいものとはならなかった。ただし、研究基盤の形成のためのデータベースの構築と整備作業、典籍調査は内部スタッフを中心に進められ、特にデータベースについては平成19年度までには基本的なメニューを整えることを完了した。平成19年度からは、外部共同研究者を加えることによって、両方向の研究は大きく進展し、様々な成果を提出することができた。

「人物」の研究成果は、勉誠出版から刊行される雑誌『アジア遊学』の、3回の特集、計50本の論文によって発表されている。この研究では、とくに台湾の日本文学研究者との連携に力を尽くし、関連研究集会をふくめ数回の国際共同研究会を開催した。人的交流から出発した両国研究者の連携であったが、漢字文化圏における文学の影響関係や、日本のキャラクター文化の浸透といった視点が浮上し、豊かな研究成果が生まれている。また「歴史人物画像データベース」や『古事類苑』などのデータベースを構築・公開することで研究の基盤形成を図り、研究者や一般の利用に供した。

これに比べ「典籍」の研究は、成果として並べることの出来る項目は多くない。平成元年より国文学研究資料館で開始された真言宗善通寺派の総本山「善通寺」の蔵書調査を受け継いだ、この研究は、15,000点に及ぶ書籍の悉皆調査完成を目指すもので、華々しさこそないが、古典研究の基盤形成という、研究の王道に位置するものである。善通寺は四国有数の古刹で、蔵書は調査の途上でも次々と発見され、当初の計画を延期しなければならない事態が一再ならず惹起したが、調査研究はようやく出口にさしかかり、研究成果報告別冊として『総本山善通寺 聖教・典籍目録稿』が作成された。稿本とはあるが、膨大な善通寺蔵書の全貌は、これによって明らかになるだろう。

なお、『平成16～21年度研究成果報告 古典形成の基盤としての中世資料の研究 研究成果報告』に、6年間にわたるプロジェクト研究の内容を報告するため、『アジア遊学』や本研究プロジェクト成果報告刊行物に収録された論考などのタイトルと要旨を付してまとめてある。タイトルの中には一見「古典形成」とも「中世資料」とも縁が遠いと思われるものも含まれているが、これは「新たな学問の創成」に向けて、あえて周辺領域との接点を探ったものである。

[全体の研究成果]

- ・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

1. 古典研究支援基盤形成のためのデータベース構築と公開

平成18年度までのプロジェクト前半期は、研究資源の蓄積・整備を目的にデータベース形成と書誌調査に力を注いだ。その成果としては、『歴史人物画像データベース』や『古事類苑データベース』（平成22年現在、天部・歳時部・地部をデータベース化。国際日本文化研究センターと共同開発。）をはじめとする5件のデータベースを作成・公開した。

2. 「古典キャラクター」という視点の提示

作成したデータベースの内、『歴史人物画像データベース』は、当初、「歴史人物」を標榜するものが文学研究で扱われなければならないのか、その理由を問われ続けた。しかし、人物研究を「古典キャラクター」という概念に深化させたことが、その答えとなった。さらには、キャラクターという視点を設定することにより新たな物語の読み方のビジョンの提示や、データベースを活用した研究成果の発表など、研究の新たな可能性も拓いたといえる。

もとより日本における中世の文学研究の細分化による逼塞感が、「キャラクター」という新しいタームを受け入れやすい素地を持っていたといえる。それが逆に研究を活性化させる契機にもなり、2度にわたる国際シンポジウムや、多くの共同・公開研究会を重ねることができた。さらに、『アジア游学』（勉誠社）に「古典キャラクター」の特集を毎年掲載するなど、多くの研究成果を生み出すことができたのは、「キャラクター」という現代的なタームと、「古典研究」の概念をすりあわせることにより研究が活性化されたからだろう。

プロジェクトは終了するが、「古典キャラクター」という新しいタームが古典文学研究にどう位置付けられるかは、今後の評価にかかるものである。

3. 典籍調査と蔵書目録の作成による、寺院における知識様態の提示

四国有数の古刹で、仁海が曼荼羅寺（後の随心院）を開創したことに始まる古義真言宗に属する善通寺蔵書の研究は、善通寺派における知識基盤形成の実態を探る上で重要である。

平成元年より国文学研究資料館で開始された真言宗善通寺派の総本山「善通寺」の蔵書調査は、本プロジェクトによって受け継がれたが、その調査研究は、15,000点に及ぶ書籍の仮目録『総本山善通寺 聖教・典籍目録稿』の作成と研究論文によって成果を示すことができた。

なお、『平成16～21年度研究報告 古典形成の基盤としての中世資料の研究報告』（平成22年3月15日刊）に、本プロジェクトにおける論文と研究発表の一覧を、その要旨とともに掲載している。

【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成〇〇年〇月、〇〇書房、全〇〇〇頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

【出版物】

- ① 『アジア遊学』108号（特集「古典キャラクターの可能性」）（平成20年3月、勉誠出版、pp4-163）、査読有

（内容）

相田満「序言 古典キャラクターの可能性」／岡部明日香「キャラクター論と人物論 平安物語文学のキャラクター形成」／武井協三「歌舞伎のキャラクター「役柄」 娘形の成立」／渡辺信和「聖徳太子認識の変遷とその表象としての造像」／佐藤敬子「「古代ロマン」の名のもとに描かれた藤原不比等像 漫画・小説から」／黄翠娥「諸葛孔明、その人物像の変遷」／藏中しのぶ「光源氏と仏教に縁なき衆生・末摘花 仏像によそえられる人物」／横田隆志「アジアの観音伝承の展開 キャラクター論の視座から」／岡部明日香「キャラクターとしての形代 平安時代の物語文学を中心に」／三田明弘「『論語』のキャラクター学」／中村祥子「旅する清少納言 『松島日記』にみる清少納言像」／齋藤正志「戦う〈異性装〉—〈解装〉による、その存在の終焉—」／武久康高「台湾における桃太郎 葉宏甲「新編桃太郎」をめぐって」／林欣慧「一大学生から見た、台湾での日本大衆文化の受容と変容」／三田明弘「ゴジラと香山滋の文学世界」

- ② 『アジア遊学』118号（特集「古典キャラクターの展開」）（平成21年1月、勉誠出版、pp4-167）、査読有

（内容）

相田満「世代をつなぐキャラクター論（巻頭言）」

※ 日中の古典 ※

勝俣隆「美男美女の悲劇—御伽草子研究におけるキャラクター論」／濱中修「京極御息所をめぐる中世神話」／相田満「観相をめぐる言説」／藏中しのぶ「鑑真和上の肖像—キャラクター形成と伝記叙述」／根木優「中世禅僧たちの属性—休・道元・夢窓」／堀誠「「河童の沙悟浄」の源流」／牧野和夫「妖怪キャラクターの継承と近代趣味家」／及川茂「鬼を画いた「画鬼」 暁斎」／内田康「偽史としての鶴説話」／江戸英雄「「橋姫」巻のかいま見—性格描写の理解のために」／陳明姿「龍の変容—今昔物語集と中国文学」

※ プレモダンとジェンダー ※

岡部明日香「伝説になった紫式部—『紫式部日記』と中世の伝説」／渡辺信和「御伽草子の中の女房像と名前」／横田隆志「媽祖伝承の受容と展開」／三田明弘「『聊齋志異』の狐女と女鬼」／杉山直子「チャイナタウンの女武者—花木蘭の変容と意味」／高橋行徳「男性社会に反逆する芸妓おもちや—溝口健二『祇園の姉妹』」／岩村麻子「タカラジェンヌの原点」／坂井妙子「化粧で乙女キャラをつくる？—赤面を巡る言説」

- ③ 『アジア遊学』130号「古典化するキャラクター」（平成22年3月、勉誠出版、全186頁）、査読有

(内容)

相田満「巻頭言」／渡辺信和「聖徳太子キャラクターの古典化と用明天皇の物語」／相田満「官職注釈から生まれるキャラクタービジネス —関東系『職原抄』注釈の世界」／横田隆志「太政威徳天としての天神」／相田満「古典化しそこなった言説とキャラクター」／岡部明日香「賢婦紫式部の確立—古典キャラクターとしての紫式部」／谷本玲大「『義経記』重出文字列に見るキャラクター像型」／楊錦昌「託雁伝書」のキャラクター」／蔡佩青「歌人から法師へ—西行の鎮魂歌—」／安保博史「笠をかぶったキャラクター —「狂句こがらしの身は竹斎に似たる哉」考」／濱中修「小栗・照手譚の神話学」／綿抜豊昭「往来物とキャラクター—今川状と百人一首」／三田明弘「荘子のキャラクター学」／牧野和夫「『少女の友』賞品と舞妓キャラクター —〈「だらりの帯」の後姿の舞姫〉の定着」／増子和男「瀨妖怪キャラクターの盛衰—日中比較の立場から—」

- ④ 『平成 17 年度研究成果報告 古典形成の基盤としての中世資料の研究 (人物・キャラクター編) 付・歴史人物画像データベース』 (平成 16 年 3 月、国文学研究資料館文学形成研究系、全 55 頁)

(内容)

松村雄二「歴史的人物の古典化 —歌人を中心に—」／渡辺匡一「光国関係資料から見る善通寺蔵書形成の一齣」／相田満「日本のむかしの有名人—歴史人物画像データベースをめぐる覚書—」／※「歴史人物画像データベース DVD-ROM」を付載し、報告書に「歴史人物画像 DB 閲覧システム (桜版) 取扱い説明書」「収録作品解説」を掲載した

- ⑤ 『平成 16~21 年度研究報告 古典形成の基盤としての中世資料の研究成果報告』 (平成 22 年 3 月、国文学研究資料館文学形成研究系、全 50 頁)

(内容)

※本プロジェクトの成果である出版物・研究論文・研究発表・シンポジウム発表等のリストを要旨を付して一覧化した。

- ⑥ 『平成 21 年度 研究成果報告別冊 総本山善通寺 聖教・典籍目録稿』 (平成 22 年 3 月、国文学研究資料館文学形成研究系、全 130 頁)

(内容)

凡例／聖教・典籍目録

【論文】

- ・渡辺信和「聖徳太子周辺の人物キャラクター —外典の師学智について—」、『東洋研究』169 号、大東文化大学東洋研究所、pp43-66、平成 20 年 11 月、査読有
- ・相田満、「地震と六国史」、『東洋研究』171 号、大東文化大学東洋研究所、pp111-132、平成 20 年 1 月、査読有
- ・落合博志、「善通寺の聖教と説話資料・文学資料」、『説話文学研究』44、説話文学会、pp137-144、平成 21 年 3 月、
- ・中山一麿、「善通寺蔵『真友抄』について—南北朝期高山寺系聞書が映す世相—」、『説話文学研究』44 号、説話文学会、pp155-165、平成 21 年 3 月
- ・渡辺匡一「よぢり不動考」、『説話文学研究』44 号、説話文学会、pp168-178、平成 21 年 3 月
- ・相田満「六国史のキツネ—その祥瑞と怪異をめぐる—」、『東洋研究』174 号、大東文化大学東

洋研究所、pp1-33、平成21年12月、査読有

【その他（学会発表等）】

（学術講演）

- ・武井協三「中日を舞台とする演劇—近松門左衛門作『国姓爺合戦』—」、日本研究国際学術研討会「教育・社会・語言・文学」、平成19年5月12日、会場：中国文化大学（台北）
- ・渡辺信和「『聖徳太子伝暦』被注言語のオントロジー—『聖徳太子平氏伝雜勘文』をめぐって—」、日本研究国際学術研討会「教育・社会・語言・文学」（主催 中国文化大学日本語文学系・日本語文学研究所）、平成20年5月24日、会場：中国文化大学（台北）
- ・落合博志「善通寺の聖教と説話資料・文学資料—展示解説を兼ねて—」、説話文学会12月善通寺例会 総合テーマ 善通寺の経典・聖教（主催 説話文学会・後援 国文学研究資料館）、平成20年12月14日、会場：香川県善通寺

（学会発表）

- ・相田満「地震と六国史—キャラクター生成装置としての六国史—」、日本研究国際学術研討会「教育・社会・語言・文学」（主催 中国文化大学日本語文学系・日本語文学研究所）、平成20年5月24日、会場：中国文化大学（台北）
- ・三田明弘「日中女性説話キャラクター論—『夷堅志』の位相—」、同上
- ・中山一磨「善通寺蔵『真友抄』について—南北朝期高山寺系聞書が映す世相—」、説話文学会12月善通寺例会 総合テーマ 善通寺の経典・聖教（主催 説話文学会・後援 国文学研究資料館）、平成20年12月14日、会場：香川県善通寺
- ・渡辺匡一「よぢり不動考」、同上
（渡辺信和・落合講演、相田・中山・渡辺匡一発表の内容はともに論文としても発表。前記「論文」の項参照。）
- ・相田満、観相譚と観相書—研究序説—、和漢比較文学会 東部例会、平成21年8月1日、会場：サン・リフレ函館（函館市勤労者総合福祉センター）

【その他（公開データベース）】

- ・歴史人物画像（古典キャラクター）データベース
- ・古典学統合データベース（芳賀人名辞典・地下家伝）
- ・伝記解題データベース
- ・古事類苑データベース（国際日本文化研究センターと共同開発）

【その他（電子出版物）】

- ・『歴史人物画像データベース（桜版）[DVD-ROM]』（平成19年3月、国文学研究資料館文学形成研究系）

[展示・シンポジウム]

(展示)

タイトル、会期(期間)、会場、展観人員

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル、展示に付随した講演などは、頭に「*」を付して展示の項に註記しても構いません。

(シンポジウム)

① 国際シンポジウム「人物・キャラクターによる前近代文学史の構築」

期日：平成19年5月13日

会場：国立台湾大学

参加：40名(日本9・台湾31)

[研究発表] 相田満「人物・キャラクターの視点による前近代文学史構築の研究 ―研究テーマ解題―」／岡部明日香「キャラクターとしての形代 ―平安時代の物語文学を中心に―」／斎藤正志「〈異性装の女〉―『とりかへばや』と『奉教人の死』あるいは「サファイア」と「藤岡ハルヒ」―」／佐藤敬子「「古代ロマン」の名のものに描かれた藤原不比等像 ―漫画・小説から―」／中村祥子「旅する清少納言 ―『松島日記』にみる清少納言像―」／林欣慧「文学におけるいじめられ役 ―近代の大衆文学を中心に―」／陳明姿「『今昔物語集』における龍の説話と中国文学」／三田明弘「孔子のキャラクター学」／黄翠娥「諸葛孔明、そのキャラクター像の変遷」／武井協三「歌舞伎のキャラクター『役柄』」／武久康高「台湾における桃太郎 ―葉宏甲『新編桃太郎』『小英雄漫遊記』」／中尾真樹「浦島太郎と玉手箱」／横田隆志「観音」／伊藤潤「太子・河勝・日本武尊 ―聖徳太子像の往還―」／渡辺信和「聖徳太子認識の変遷とその表象としての造像」／「人物・キャラクターによる文学史の構築 [討議]」

② 国際共同研究会「人物・キャラクターの視点による前近代文学史構築の研究2―津島祭・からくりとともに―」

期日：平成19年7月28～29日

会場：同朋大学

参加：17名(台湾1・在台日本人4・日本13)

[研究発表] 濱中修「玉藻前と王権 ―その人物類型を求めて―」／陳明姿「日本文学における龍 [補足]」／蔵中しのぶ「辺境のジャータカ ―『延暦僧録』天皇菩薩伝・皇后菩薩伝」／相田満「和漢古典学のキャラクターオントロジ」／三田明弘「ゴジラのキャラクターと香山滋の文学世界」／斎藤正志「女性が男装して戦うこと」／佐藤敬子「「古代ロマン」の名のもとに描かれた藤原不比等像2 ―漫画・小説から―」／岡部明日香「キャラクター論と人物論 ―平安時代の物語文学におけるキャラクター形成―」／横田隆志「海の観音 ―媽祖―」

③ 国際共同研究会「人物・キャラクターの視点による前近代文学史構築の研究3」

期日：平成19年12月8日

会場：台湾大学

参加：20名(台湾10、在台日本人4、日本6)

[研究発表] 相田満「神相・面相・キャラクター」／渡辺信和「「光明本」に見られる先

徳影像をめぐって」／蔵中しのぶ「仏像キャラクターと人物伝」／三田明弘「妖怪美少女のキャラクター構造—『聊齋志異』試論—」／牧野和夫「古典キャラクターの“継承”と近代趣味家」

④ 公開研究会 総合テーマ「テキストとキャラクターの問題系」

期日：平成20年7月23日（「和刻本の研究」プロジェクトとの合同日程シンポジウム）

会場：国文学研究資料館

参加：25名

[研究発表] 相田満「文字と故事のキャラクター —「朱博」故事をめぐる「鳥」と「鳥」の問題系」／渡辺信和「聖徳太子をめぐる人のキャラクター —学智論—」／三田明弘「夷堅志にみる宋代の歴史人物」／勝保隆「天人のキャラを通して見た『あめわかみこ（七夕）』の構造」
※他に「和刻本の研究」プロジェクトによる研究発表4件があった

⑤ 公開シンポジウム「ジェンダーと古典キャラクター」

期日：平成20年11月15日

会場：日本女子大学西生田キャンパス

参加：45名

主催：日本女子大学人間社会学部文化学科と共同主催

[講演] 陳明姿「古典文学における女性のキャラクター —『古事記』『伊勢物語』『源氏物語』を中心に—」

[研究発表] 相田満「開催趣旨説明 古典キャラクターの可能性」／杉山直子「開催趣旨説明 ジェンダー研究とキャラクター」／相田満「古典キャラクターと人相占い—観相資料に見る女性たち—」／高橋行徳「男社会に反逆する芸者『おもちゃ』—溝口健二『祇園の姉妹』について—」／木村覚「20世紀の男性ダンサー—暗黒舞踏までの観客の視線をめぐる舞踏史—」／岩村麻子「憧れのタカラジェンヌ—宝塚少女歌劇が紡いだ夢」／渡辺信和「御伽草子に見られる女房のキャラクター—その女房名をめぐって—」／及川茂「鬼のキャラクター 江戸時代の描かれた鬼」／濱中修「京極御息所をめぐる中世神話」／三田明弘「中国の狐女と女鬼」／横田隆志「媽祖のキャラクターとその受容」／杉山直子「チャイナタウンの女武者—キャラクターとしての花木蘭の変容」

⑥ 国際研究フォーラム 総合テーマ「アウトロー(Outlaw)を考える」

期日：平成21年3月16日 人間文化研究機構との共同主催

会場：人間文化研究機構会議室

参加：12名

[研究発表] 相田満「趣旨説明・「アウトロー・小野篁」(Takamura Ono as the Outlaw)」／濱中修「中世物語の中のアウトロー達—義経と弁慶をめぐる— (The Outlaws in the Tales of the Middle Ages: Yoshitune and Benkei)」／Eric Dayre (IEA) 「ジョン・フォードが演出をしたシェイクスピア、その演技に表れた法律 (Shakespeare as staged by John Ford, acting out the law)」／渡辺信和「物部守屋をアウトローと認識する三層の規範 (国の法・神の法・仏の法) (Three levels of models to recognize Moriya Mononobe to be Outlaw— The law of the country, the laws of

God, the commandments of Buddhism)」／三田明弘「仏教説話におけるアウトロー (The outlaw in Buddhism tales)」／及川茂「ジオルジュ・ビゴアの描いた壮士の実像 —明治のアウトロー— (The real image of the desperado whom Georges Bigothe drew : The Outlaw of the Meiji era.)」

⑦ 国際シンポジウム「キャラクターの古典化」

期日：平成21年5月17日（台湾大学との共同主催）

会場：台湾大学

参加：74名（内、外国人11名、日本人63名）

〔研究発表〕渡辺信和「聖徳太子キャラクターの古典化と用明天皇の物語」／横田隆志「大威徳天としての天神」／岡部明日香「『賢婦紫式部』の確立—古典キャラクターとしての紫式部—」／蔡佩青「歌人から法師へ—西行の鎮魂歌—」／安保博史「笠をかぶったキャラクター —〈笠〉をシンボルとする芭蕉説話の形成—」／相田満「有職故事のカリスマー —北畠親房と『職原抄』—」／濱中修「中世の英雄像の誕生 —小栗を中心に—」／楊錦昌「『託雁伝書』のキャラクター」／三田明弘「キャラクターとしての莊子 賢者から神仙へ」／斎藤正志「我が身を削るキャラクター —「仏陀の前生」と「あんぱんまん」—」／黄翠娥「日本文学における項羽像の変容」／牧野和夫「『少女の友』賞品と舞妓キャラクター —〈「だらりの帯」の舞妓〉の定着」／小高裕次「浦沢直樹作品におけるブラック・ジャックの影響」／佐藤敬子「ミッキーマウスという王道キャラクター —東京ディズニーリゾートにおけるカノン化—」／陳明姿「『今昔物語集』における狐説話と中国文学」／増子和男「動物妖怪キャラクターの変遷 —獺妖怪キャラクターの盛衰をてがかりとして—」

⑧ 公開研究会「古典とキャラクターを考える」

期日：平成21年9月7日 日本学術振興会科学研究費補助金（萌芽）「観相資料の文学的研究」（代表：相田満）と合同開催

会場：国文学研究資料館

参加：15名

〔研究発表〕渡辺信和「聖徳太子の観相」／横田隆志「キャラクターの古典化—長谷観音の御衣木を例として—」／井田太郎「俳人肖像をめぐる問題」／相田満「観相と文字のキャラクター」／石井行雄「千字文から見た草仮名」／濱中修「巴御前の神話学—『源平盛衰記』を中心に—」／安保博史「笠をかぶったキャラクター—〈笠〉をシンボルとする芭蕉説話の形成—」／蔵中しのぶ「渡来僧のキャラクター形成と伝記叙述—玄奘・菩提遷那・鑑真—」／陳明姿「日本古代文学における鬼と中国文学—今昔物語集の震旦部を中心に—」

〔研究討議〕古典とキャラクターを考える—／相田満「話題提供 古典を考える」

【研究会・資料調査】

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。（研究打合せは記入しないこと。）

【平成〇〇年度】

(研究会)

期日、会場、発表者（報告者）とタイトル

(資料調査)

期日、調査先

【平成16年度】

(研究会)

4月7日・5月19日・12月15日・3月16日に研究基盤の構築に関する検討と討議を行った。

(資料調査)

8月・2月に善通寺、8月・3月に随心院の調査を実施した

【平成17年度】

(研究会)

5月19日、国文研、相田満「(プロジェクト研究発表会の事前発表) [題未定]」

7月14日、国文研、研究報告書の検討・討議。

(資料調査)

8月・2月に善通寺、8月に醍醐寺、2月に随心院の調査を実施した

【平成18年度】

(研究会)

毎月1回(除8月・12月) 状況報告と進捗状況についての報告・討議を行った。

(資料調査)

8月に善通寺、11月に随心院の調査を行った

【平成19年度】

(研究会)

この年度より外部共同研究者を加えての国際シンポジウム・公開研究会、外部での成果発表などを中心に行ったため、研究会は行われていない。（【展示・シンポジウム】の項参照）

(資料調査)

8月・3月に善通寺、8月に随心院の調査を行った

【平成20年度】

(研究会)

他大学との合同シンポジウム・館内の他のプロジェクトとの同日開催の公開研究会・機構後援による国際研究フォーラムを開催した。（【展示・シンポジウム】の欄参照）

(資料調査)

8月・3月に善通寺、8月に随心院の調査を行った。

【平成21年度】

(研究会)

2月1日 総本山善通寺

・落合博志「『安撰和歌集』の諸問題—善通寺蔵光国写本の位置など—」

・渡辺匡一「『血脈抄』の諸本と資料的価値—善通寺本を中心に—」

(資料調査)

8月・2月に善通寺、8月・2月に随心院、8月に京都国立博物館、9月に奈良国立博物館・園城寺の調査を行った。